

第 41 期 定時株主総会における主な Q&A

Q1. 情報セキュリティ対策について伺いたい。(会場質問)

A1. 顧客の重要な情報を取り扱っていることを、全社員が意識して日々業務に取り組んでいる。その上で、情報セキュリティガイドラインの整備、IT 設備への適切な投資、社員への継続的なトレーニング及び確認サイクルの運用により、情報管理体制の強化に努めている。

Q2. 東京エレクトロン株式会社との取引について伺いたい。(会場質問)

A2. 当社売上高全体に占める同社との取引の割合は大きくない。同社を重要顧客の一社と位置付けており、積極的な販売活動を行っていく。

Q3. CN 事業は第 42 期に減収を見込んでいるが、その要因を伺いたい。(会場質問)

A3. IT 機器やソフトウェア製品の価格上昇により顧客の予算枠に収まらない案件が発生している。また、IT 機器の長納期化により第 42 期中に納品が困難な案件が発生している。このような状況を踏まえ、第 42 期の業績見込みを設定している。

Q4. データセンター増設の影響を伺いたい。(会場質問)

A4. 国内のデータセンター事業者向けのビジネスを行っており、データセンター増設は IT 機器販売機会の拡大につながるものと認識している。

Q5. 中期経営計画 VISION2030 の施策を伺いたい。(会場質問)

A5. 目標とする経営指標のうち、経常利益率 8%以上の達成が最重要課題と認識しており、3 事業の磨き上げを基本方針として取り組んでいる。

EC 事業では、ソリューション型ビジネスの展開や収益性の高い製品構造への転換を進めている。半導体製品の単体販売にとどまらず、開発支援や完成品に近い形で供給を行うとともに、組込みセキュリティや OT セキュリティ向けの製品及び関連サービスの提供を通じて、収益性向上を図る。

CN 事業では、ストックビジネスの展開や自社サービスの拡充により、安定的な収益基盤の強化を進めている。

PB 事業では、基板の設計・量産受託サービスと、自社製品である計測・検査装置のビジネスを展開している。設計・量産受託サービスでは、採用顧客数及び採用基板数量の拡大を進めている。検査装置分野では、材料工程向け装置の提供に加え、デバイス工程やパッケージ工程といったより広い領域での新たな計測・検査ニーズへの対応に向け、研究開発及び新製品投入を進めている。

Q6. 第 41 期におけるウェーハ検査装置の販売が低調だった要因を伺いたい。(会場質問)

A6. 顧客における設備投資が一巡し、足元では調整局面にあることが影響した。また、化合物半導体ウェーハについては、EV 市場の減速により、当初見込まれていた設備投資が下振れしたことも影響している。一方で、AI 関連需要の拡大を背景にウェーハ市場の状況も変化しており、今後は回復に向かうものと見ている。

Q7. セレブラス社製品の今後のビジネス展開を伺いたい。(会場質問)

A7. セレブラス社は、AI 分野における計算リソースを提供するハードウェアメーカーである。AI 分野では、推論工程における計算リソース需要が今後一層拡大すると見込まれており、同社製品は当該領域での高い成長が期待される。こうした AI 需要の拡大やデータセンター投資の進展に伴い、当社のビジネス機会拡大につながるものと認識している。

Q8. 中期経営計画 VISION2030 の達成に向けた PB 事業の位置付けを伺いたい。（会場質問）

A8. PB 事業は、VISION2030 の達成に向けた重要な成長ドライバーの一つと位置付けている。一方で、EC・CN 事業も含めた全事業で取り組むことにより、VISION2030 の達成を目指していく。当社の非連続な成長を実現するために PB 事業を展開しているが、さらに次の非連続成長に向けてコーポレートイノベーション部を創設し、技術開発に取り組んでいる。

以上